

四度加行の基礎資料 (二)

―『十八道加行作法傳授口決』、『十八道傳授口決』―

中山 照 玲

この『十八道加行作法傳授口決』（外題）と『十八道傳授口決』（外題）は、成田山仏教図書館所蔵 ち1711133の写本である。ち1711132、

両写本共に外題のある共紙の表紙の上に、更に貼り外題のある表紙が加えられている。

本文部は両写本共に同一人の書写であることは一見して明らかであり、それは照峯というかたで、書写された明和七年（一七七〇）の年代から見て、成田山中興第五世とされる照峰上人（一七一〇―一七八三）であると思われる。

この『十八道加行作法傳授口決』も『十八道傳授口決』も共に、佛書解脫大辞典や国書総目録には取り上げられていない書名である。

『十八道傳授口決』に奥書は無いが、『十八道加行作法傳授口決』に見られる奥書には、「右一帖は 相承の秘旨散口紙なり 散脫を恐るる為に率に集記す 他見の及ぶべからざるなり 苾芻 性善誌す」とあって、性善和上（一六七六―一七六三）の口訣であることが知られ、それからの再転写本にあたる。

性善阿闍梨（一六七六―一七六三）について、真言宗全書解題所載の解題と著者略伝等によれば、出生は現在の長野県松本の人で実名は性善、初め永伝房ようでんぼうと号し後に洞泉坊と改めたが、悉曇灌頂受法の頃には祐譽といったよう

で、悉曇灌頂血脈に醍醐寺賢隆からの受法の時の名前が祐誉となっている。^③

三〇歳前後の壮年の頃に醍醐山で報恩院法務大僧正寛順に報恩院流を相承、寛順の入滅後は寛順の師である前報恩院法務大僧正有雅に随って灌頂受法し、法兄戒光院（安養院にも住した）運動の教導を受け、また西往院（持明院にも住したか）賢隆（一六四九）からは、かつて賢隆が延宝五年（一六七七）三月に智積院澄禪から受けたと思われる悉曇灌頂^④を受法している。

性善和上は初め上醍醐の円明院に住したが、後に横尾山に登り受戒し、山城相楽郡瓶原貞福寺^{みかのほろ}に住した。

延享元年（一七四四）五月六日に高野山に登嶺し、淋賢阿闍梨の弥勒院に掛錫して夏安居を結び、妙瑞等十一人のために報恩院流一流伝授を行った。

性善和上自身の記である『南岳授法記』^⑤には、性善和上が醍醐山で壮年の時に疱瘡に罹患し、重病の床にあった時、宗祖弘法大師とその母慈尊院の護念をいただいているのを夢に見て、回復することができたことから、高野山真別處円通寺の妙瑞律師等の報恩院流一流伝授の請を受けた時に、快諾してこれに応じたのであることが知られる。

智山の動潮僧正が性善和上に受法したのは、宝暦年間（一七五一―一七六四）と考えられているようであり、^⑥宝暦七年（一七五七）八月醍醐山にて『厚双紙』を受法、宝暦八年（一七五八）八月二八―九月二日東大寺惣持院で作法集を受法している。

また性善和上は宝暦九年（一七五九）九月二四日奈良菩提山町の菩提山龍華樹院正暦寺釈迦院で、伝法灌頂伝授口訣を演べて三巻となし、更に翌年宝暦一〇年（一七六〇）東大寺戒壇院で悉曇灌頂を行ったが、この灌頂は延宝五年（一六七七）五月に智積院澄禪が醍醐山の賢隆に授けていた、高野山南院の良意から相伝していた小嶋流の悉曇灌頂

であった。

豊山長谷寺でも宝暦十一年（一七六一）七月喜多坊において報恩院流の一流伝授を行っており、宝暦十三年（一七六三）九月智積院梅寮についての報恩院流一流伝授は、動潮僧正にとっては再伝受であったことになる。

性善和上は、この智山での九月の伝授の後、一〇月二十四日に八八歳で遷化されており、直前まで教法の伝授につとめておられたことが知られる。

次にここに取り上げるこの『十八道加行作法傳授口決』の奥書に、「相承の秘旨散口紙なり」とあり、「散口紙」は口述記録、口訣、口伝書などの意と思われ、性善和上の多くの著作の中にはかなりこの散口紙とする著作がある。

密教大辞典（一一七八頁）所載の性善の項に取り上げられている著作には、実に四八種の著作書名があり、その中に散口紙とするものは『秘鈔散口紙』、『厚造紙散口紙』、『薄普通散口紙』、『薄二重散口紙』、『瑜祇經散口紙』、『秘藏金寶集散口紙』、『諸尊要鈔散口紙』、『作法集散口紙』の八種が見られる。

これらの散口紙の名目を見れば、四八種の著作の中には『十八道口訣』、『十八道別記』の名が見られるが、四度関連の散口紙の名目が見られず、この他に四度の散口紙が存在するであろうことは当然考えられるところであり、洞泉師の『四度次第口決』（外題）の『十八道加行作法^{折紙}』（内題）十四丁に「泉之散口^{アリ}番別」と記されているのが見られ、この度ここにに取り上げさせていたたく『十八道加行作法傳授口決』は、その奥書に記されているところから見て、その散口紙の一部であると考えられるのである。

ここにこの性善和上の著作を取り上げさせていたたくのも、こうした事情からであり、またこの写本の書写は成田山の中興第五世の照峰上人（一七一〇～一七八三）筆と考えられ、中興照範上人（一六六三～一七二四）の孫弟子に当っ

ている。

照峰上人は寛延二年（一七四九）成田山新勝寺に晋山し、天明三年（一七八三）遷化されたのであるが、在任中には江戸での出開帳や巡行開帳を行い、成田不動の名を世に高からしめ、参詣者を増加させ、さらに境内の整備を行い功績が大きかった住職であって、この『十八道加行作法傳授口訣』を書写されたのが照峰上人であるとすれば、真言宗の事相の実践修法の方面でも強い関心を持っておられ、知られざる実績があったのではなかったかと思われる。

『十八道加行作法傳授口訣』は、真言行者が四度加行の最初に行じなければならない行位である『十八道加行作法』の折紙の、その修法作法について、師から資へと代々相承されて来た大切な口伝秘説を記したものである。

性善和上が用いられた『十八道加行作法』の折紙の内容は、この口訣の中に取り上げられている。

前にも記したように、性善和上相伝の法流は、醍醐寺に伝わっている三寶院流の報恩院方（報と恩の片字を取って幸心方と称する）或は、開祖憲深僧正の名前から憲深方ともいわれており、この法流に伝えられている『十八道加行作法』の折紙であったことになる。

現在最も普通に披見可能な『十八道加行作法』の折紙としては、事相聖教出版の嚆矢といわれる明治四一年葦原寂照師によって大阪市北区太融寺町の太融寺から発行された、『三憲聖教』^⑧所収の『十八道加行作法』^{幸心}と表包にあつて、葦原寂照師が書写されたと思われる折紙を収める、三紙一包の折紙がある。

他には、長谷寶秀全集の別帙として出版された、『三寶院流憲深方四度次第』所収の『十八道加行作法』^{幸心}がある。智山派で現在の四度加行の行者が用いている『十八道加行作法』は、『十八道念誦次第』^{如意輪}^⑩の最初に印刷して

付されており、折紙には作られていない。

良く使用されている『十八道加行作法』の折紙は、弘法大師一千百年遠忌記念として昭和七年六月十五日東京芝眞福寺から出版された『幸心方四度次第^①』に収められている折紙で、これは現在でも報恩院流の一流伝授に用いられる標準となっている。

この中で最も版を重ねて普及しているのは、太融寺出版本と考えられ、以下『十八道加行作法』折紙も、また次の『十八道傳授口決』で用いられる『聖如意輪觀自在菩薩念誦次第』も、この太融寺出版本を参照する事とする。

十八道法とは、布施淨戒大僧正の講義では「十八契印の教道」とされ、当流の初心の行者の四度加行では如意輪觀自在菩薩を本尊としており、その供養作法は醍醐寺延命院の元杲僧都作の『聖如意輪觀自在菩薩念誦次第』によって修法される。

『十八道傳授口決』ではこの念誦次第の文について口決しているが、その次第の文は真言宗の行者であれば記憶していることであるために、省略している部分が多い。

『十八道加行作法傳授口決』の折紙の本文部分も、『十八道傳授口決』の本文の部分も太字を用いることとし、更に省略されている部分については、太融寺出版本の『十八道加行作法』の折紙と、『聖如意輪觀自在菩薩念誦次第』から、鉤括弧に入れて補うことにする。

註

- ① 成田図書館蔵書分類目録 仏教部 昭和五十二年十一月十日発行 四〇四頁、四〇五頁。
- ② 真言宗全書 附卷 第一解題 第二著者略傳 昭和五十二年十月三十一日発行（復刊） 第一解題 一五八頁下段～一六〇頁下段 『十八道傳授聞書^幸』、二三九頁下段～二四一頁上段一八行目 『三寶院流洞泉相承口訣』。
- ③ 第二著者略傳 三六七頁上段～三六八頁上段「性善」、三七〇頁上段～下段「動潮」。
- ③ 稻谷祐宣編『悉曇灌頂集成』五～六頁所収「悉曇血脈」。
- 祐譽から東大寺の智蓋へと相伝されており、東大寺戒壇院での悉曇灌頂であつたと思われる。
- ④ 智山講伝所編『梵字悉曇独習書』 真言宗智山派宗務庁発行 昭和六十二年九月十二日発行 二三三頁。
- ⑤ 『南岳授法記』 前註②真言宗全書 解題 一五九頁下段～一六〇頁上段所収。
- ⑥ 前註②真言宗全書 解題 『三寶院流洞泉相承口訣』 解題 二四〇頁下段。
- ⑦ 成田山開基一〇八〇年記年『新編成田山史』 成田山新勝寺 平成三十年四月二十八日発行 二〇二～二〇三頁。
- ⑧ 葦原寂照編『三憲聖教』 太融寺 昭和五十二年二月二日 第三版発行 所収。
- ⑨ 長谷寶秀全集 別帙『^{三寶院}四度次第』 法藏館 平成九年三月二日発行 所収。
- ⑩ 智山講伝所監修『四度次第』 総本山智積院 平成二七年一月三〇日 改訂一版発行 所収。
- ⑪ 弘法大師一千百年遠忌記念出版『^{幸心方}四度次第』 眞福寺 昭和七年六月一五日発行 所収。

凡 例

④太融寺本 葦原寂照編『三憲聖教』太融寺 昭和五二年二月二日第三版発行 所収折紙並に『聖如意輪觀自在菩薩念誦次第』を用いる。

⑤真福寺本 弘法大師一千百年遠忌記念出版『幸心方四度次第』真福寺 昭和七年六月一日發行 所収折紙並に『聖如意輪觀自在菩薩念誦次第』を用いる。

⑥長谷寶秀全集本『三寶院
惠深方四度次第』法蔵館 平成九年三月二日發行 所収折紙並に『聖如意輪觀音念誦次第』を用いる。

ここで取り上げる『十八道加行作法傳授口決』と『十八道傳授口決』は、照峯師の再転写本であることから、他に転写本が普及していたと考えられるが、仏書解説大辞典や国書総目録にはこの書名が見られず、別写本の所在が不明である。

したがって他の写本との校合は出来ないが、折紙部分の校合や十八道念誦次第の『聖如意輪觀自在菩薩念誦次第』からの頸標目や觀想文等の真言行者が暗誦しているところが省略されているので、これを太融寺本から補うことにする。

(外題)
十八道加行作法傳授口決

第一日 十八道加行折紙傳授^①

この一行はこの口決には無いが折紙の標題にあり参考に加えておく。

〔十八道加行作法〕^②

先ツ讀ミ渡シ一ツ百一日備ニ香花一前^一 三種ノ真言日中

同シ大師ノ御前^ヲノ所作同^レ上^ニ

次ニ異一本ノ讀ミ渡シ備^レフ之

兩一両

次ニ仰ニ云ク如^レク是兩本傳授ス^レ行^{スル}時ハ用^ヒ来^レリ先^キノ

本^一後ノ本ハ異一本也 此ノ兩一本共ニ不^レ知^ニ誰^レ人ノ

作^一定^ニテ可^キ祖師ノ御製作ナル也 扱^テ是^レ此ノ方ニハ

帑一紙

云ニ十八道加行ノ折帑^一ト或ハ十八道加行日記^ニ

所一

云フ流モアリト也 此ノ時ハ記^ス日^ニミノ所作^ヲ物ナルカ故^ニ

尔一爾

云フト尔^一カ也 此ノ折紙ハ必ス其ノ行者ノ阿闍梨書^テ寫^ス

與一與

與^レ之非ニ受者自^ラ書^テ寫^{スル}物^ニ也 先ツ出^テ家得^テ度^ノ

晚^{ヨリ}戒^一精進ノ入堂一百日次ニ十八道加行始^テ行^ス

①前にも記したが、真言行者が四度加行の最初に修する十八道加行で、阿闍梨が自ら認めて授ける作法折紙の「十八道加行作法^{（幸心）}」とある表包の中にある三紙の折紙の伝授にあたる。

②この口決には無いが、^{（真）}真の折紙冒頭の標題には「十八道加行作法」とある。

爲―為

水丁―灌頂

陀―陀

観―観

焉

以如意輪為本尊^③ 往古ハ十八道並ニ十八道加行ノ本

尊不レ定^ラ或ハ以ニ結縁水丁ノ得佛一^定ニメシ本尊一^ト也 大

師ハ以ニ大日^ヲ為ニ本尊一^ト給^ヒ 真雅ハ以ニ阿弥陀^ヲ為ニ本

尊一^ト給^フ源仁有^シハ御^ニ授^ケ尊師^ニ亦以ニ大日^ヲ為ニ本尊一^ト

給^フ而^シ石山ノ淳祐并ニ延命院ノ元杲御製作ノ十八道ノ次

第ニハ以ニ如意輪^ヲ為ニ本尊一^ト給^フ其ノ以^テ後ノ祖^ト師方^モ以ニ

如意輪^ヲ不^レ定^メニ^玉ハ本尊一^ト正^シク如意輪^ト定^{タル}ハ者成賢

僧正以來也 如^レ是以ニ如意輪^ヲ定^メニ^玉ハ本尊一^ト者惣ノ観

音ハ濟度利生ノ方便勝^ニ餘尊^ニ末世ノ利益甚深^{ナル}中^ニモ

如意輪ハ別^ノ救世ノ悲願厚^フ大悲深重ノ尊^{ナレハ}為ニ本尊一^ト

其ノ上當山鎮守並ニ根本祖^ト師共ニ如意輪ノ化身^{ナレハ}

別^ノ可^キ信仰^ス尊也

又十八道ノ儀軌^モ蓮花部ノ様^ニ見^{ユル}也

一百日或三七日^④ 當山住居ノ僧ハ必ス一百日可^レ修^レ

③ 標題の次に「以如意輪為本尊」と記されている折紙を正本として用いる。異本には、標題の次に「本尊 如意輪」と記されている。

④ 「一百日或三七日」折紙には「毎日三時^或三七日」とある。

等 等

之若ハ老僧或ハ重受病僧又ハ俗脱ノ入道等ノ百日難_レ修_シ者_ニハ三七日_モ可_レ許_レス之也

初夜_文 先_二出_{ス也} 初夜ノ作法_ヲ也 扱_テ初夜_ニ開白_{スルハ}

者諸尊法依_レ尊_ニ儀軌ノ説各別_ニ開白ノ時 尅_不ニ一准_{ナラ}

井 菩薩
醯 醯
然_レ佛井_ハ初夜ノ開白普通也 其_上ハ 瞿 醯 經_ニ初

經 經・經
夜_ニ開白_{スレハ}悉_一地成_{スル}之_一由_シ説_レタリ 故_ニ今_マ初夜_ニ

開_一白_{スル}也

先備香花一前_文 如_レ常ノ先_ツ壇上_ヲ莊嚴_ハ者中央_ニ奉_レ

左 左
懸_ニ本尊_一々々ノ右_ニ行者_之大師本尊ノ左_ニ行者_之尊師奉_レ懸_レ

之就_レ是_レ有_ニ異説_一或_ハ本尊ノ左_ニ大師右_ニ尊師奉_レ懸_レ

之流_モ有_レ之此ノ意_ハ准_ニ世間ノ一往_ニ故_ニ以_レ左_ヲ為_レ上_ヲ

為_レ下_ト例_{セハ}如_ニ世ノ左右大臣_一也 又_ハ大師ノ御影向_キ

給_フ樣自_ラ向_ニ中尊_一給_フ故_ニ左_ニ奉_レ懸_ニ大師_一也 松_一

橋方_{ナドハ}如_レ是歟當流_{右ニ}奉_レル_ハ懸_ニ大師_一佛_一界_ハ以_レ右

為_レ上_ト衆_一生界_ハ左_ヲ為_レ上_ト故今以_レ右_ヲ為_レ上_ト臈_ト奉_レ

羅—羅

處—處

灑—灑

衰—衰

懸^ニ大師^一ヲ也 扱^テ御前^ニ々^一机^一脚花^一瓶^一本火^一舍
花皿^一龙^ニ脇机^一一脚上^ニ理^一趣^一經^一礼懺^一陀罗尼^一念珠置^レ
之右^ニ打^チ鳴^シ置^ク之^ヲ 壇ノ左右^ニ燈臺居^レ之^ヲ 又脇^一
机ノ下歟便^宜ノ處^ニ替^カ珠数^一一連置^レ之也 他流^ニハ 鈴
五貼^一金剛盤^一灑水^一塗香^一等有^レ置^レ之此ノ方^ニハ不^レ置^レ之
扱^テ當流^ニハ常^ニ袈裟衣ノ外^ニ別^ニ道壇^ニ袈裟衣疊^ミ置^キ
之^一作法行^{スル}時^キ用^レ之^ヲ 元行^一者^ハ常^ニ着^ニ衣袈裟^一
行^レク廁^ヘ時^ト洗浴^ノ時許^リ脱^レ之其ノ餘^ハ平生^ニ可^レ着^レ之
也 上古^ハ寢^{ヌル}時^キモ着^レ衣^ヲ袈裟許^リ脱^レ之置^ニ枕^一
本^一ト寢^子シント也 是^レヲ云^ニ寢衣^一ト也 又タ淨衣^トテ平生
着用^ノ內衣ノ外^ニ別^ニ新淨^ノ服^一ヲ若^シ新淨^ノ衣難^キ調者^ハ 儲^ケ置^キ
入^ニ道場^一時着^{スル}之也 常ノ內衣ノ上^ニ單^一衣帷^一子等^ヲ
着^ノ行^{スル}ハ畧也 扱^テ開白^ノ日^一限^ハ其ノ行者阿闍梨勸^レ
之定^レ之先^ツ第一^ニ可^レ禁^ニ師資ノ衰日^一ヲ 次^ニ勘^ヘ曜宿^ノ
吉凶^一ヲ 次^ニ可^レ藺^ニ支^一于^ノ吉凶^一ヲ 梵國^ニハ 藺^ニ曜宿^一ヲ漢

凶—凶

土ニハ擇ニ支于一我朝ニハ曜宿支于一共ニ簡フ也 但シ佛家ニハ
支于一凶ナリト曜宿ノ吉ヲ為レ專ト也 又當山ニテハ曜宿大
躰ナレハ六日九一日ニハ少ノ凶日ハ不レ嫌ヲ始ニ行スル一
也 是レ思フト祖師之冥加一也 入ニ道場ニ時ハ改ニ內衣一

着ニ淨衣ヲ洗レ手ヲ漱キ口ヲ着ニ袈裟衣ヲ入ニ堂内ニ脱ニ常
ノ袈裟衣一疊ニ置ニ堂内ノ傍ニ着ニ道場安置ノ袈裟衣一至ニテ

本尊ノ御前ニ禮拜一百八返先取ニ脇机ノ上ノ念珠ヲ立一チ

上ニ懸ニテ念珠ヲ於左右ノ中指ニ他流ニハ掛ニ頭指ニ當流ニハ懸ニ達磨ヲ左
中指ニ掛ニ緒留ヲ右中指ニ摺レニ珠ヲ

押シ摺テ誦ノ礼文ニ五躰投地ノ礼ニ本尊ノ御足一也 五躰投地先
左膝次覆右手着地次覆左手着地次額着地而仰御
左右手掌兼尊御足脚屈指端是入我々入之意也礼ノ数ヲハ以ニ念珠一尤ノ

頭指中指ノ脇ニ扶ミ取レル数ヲ若百八反ノ中ニ取リ落シ念珠一

数不レハ知又本トヨリ可ニ仕置一也 越ニ念ニ珠緒留一取レ

数ヲ但シ不レ越ニ母珠一ハ禮拜了ニ着座半 摺ニ念珠一取ニ

珠ヲ二匣一金二打打ニ此ノ金一有ニ二樣一ハ如レ今又ハ礼

拜以前ニ金二打次ニ先ツ乙ニ打ツ當流用ニ先乙甲ニ打ツ 此ノ時ハ着座ノ

座—座

兼—承
扶—挾

座—座

⑤「禮拜一百八返」折紙には「次禮拜百
遍 南無歸命頂禮大聖 如意輪觀自在
菩薩 慙愧懺悔六根罪障 滅除煩惱滅
除業障」と禮拜の文も記されている。

後不_レ打也 此方_{ニハ}用_ニ着座ノ後打_レ之様_一也

次_ニ心經七卷_⑥ 理趣經一卷_⑥ 勸請ノ句自他法界同利

益_ト唱_レ之 廻向ノ句弘法大師増法樂ノ句ノ之次_ニ理源

大師増法樂 三代聖靈成正覺ノ二句入_レ之末山遠國_{ニテモ}

西酉流ノ行者ハ常_ニ唱_ニ三代ノ句_一有_ニ鴻恩_一故而已

西酉—醍醐
恩—恩

次_ニ尊勝陀羅尼七反_⑦ 次大咒九一反 心咒千反 心

中心咒百反_⑧ 次摺_ニ念珠_一祈念_了テ金打 次下礼盤誦_ニ

礼文_一五躰投地ノ三礼_{スル}也 後夜日中_⑨ノ作法同_レ之_ニ但_シ

初夜後夜_{ニハ}佛供无_レ之 開白結願 契佛供備_レ之常_ノ

日中ノ佛供_{ニハ}洗米用_レ之今時_ハ晷_ノ不_レ洗_ハ也

大師ノ御前ノ所作_⑩毎日ノ日中ト開白ト_ニ本座了_テ取_リ替_ヘ

香花_一備_ニ佛供_一毎日_ハ洗米_{ニハ}先_ツ五躰投地ノ三礼 但_シ礼

文无_レ之松橋_{ナドニハ}誦_ニ宝号_一礼_{スト}也 此ノ方_{ニテハ}千日

言—護摩

言_ハ大師尊師ノ之所作礼文有_レ之四度_{ニハ}不_レ用_ヒ也

次_ニ着座ノ摺_レ珠_ヲ畢_テ珠_ヲ二匝_ニ持_ニ左手_一金_ニ打_ニ理趣

⑥「次心經七卷 理趣經一卷」折紙には「次心經七遍 次理趣經一卷」とある。

⑦「尊勝陀羅尼七反」折紙には「尊勝陀羅尼七卷」とある。

⑧「次大咒九一反 心咒千反 心中心咒百反」折紙には「次本尊三種真言 大咒七遍 心咒百遍 心中心咒百遍」とある。

⑨「後夜日中」折紙には「後夜如初夜日中」とある。

⑩「大師御前所作」折紙には「此外毎日大師御前所作」とある。

經^⑪
卷一 勸請句弘法大師増法樂 礼懺^{卷一} 次ニ此ノ折紙ニハ无^レ 尊勝陀罗尼

三反 次ニ三ッノ讃 謂ク四智 心畧 不動各々梵語

次ニ至心廻向 次ニ^⑫宝号百反 次摺^レ珠ヲ祈念金一打

次下礼盤三礼如^レ前ノ也 礼懺ハ白月ニハ上^十五日用^レ金ヲ

黒月ニハ用^レユル胎ヲ也 用^レユル胎ヲ時ハ讃ノ次ニ廻向方便用^レ

之讃ハ同讃也

尊師^⑬ノ御前ノ之所作如ニ大師ノ御前ノ但シ理趣經ノ勸請

ノ句尊師聖灵感成正覺或ハ理源大師増法樂上古ハ尊師聖

灵感成正覺也 至心廻向ノ次ニ弥勒真言百反誦^レ之此ノ真

言ニ耶ノ字ノ下ニ加^二フルモ阿字ヲ有^レリ之任^レ意ニ可^レキ誦ス也

尊師ノ法樂ニ誦^二スルハ弥勒ノ真言^一者先ツ尊師ハ如意輪ノ

化身也 如^一意輪弥勒同躰ナレハ秘ノ如意輪ノ化身^一ナルヲ

誦^二スル弥勒ノ真言^一也 如意輪弥勒同躰ノ證據^ハ者 弥

勒ノ讃ト^ハ此ニ如意輪ノ讃^一全同也 又上宮太子ノ御作ノ四

天王寺ノ如意輪ノ御足ノ裏ニ南无當来下生弥勒尊佛ト^二

⑪「理趣經」勸請句弘法大師増法樂 礼懺^{卷一} 折紙には

「香花一前理趣經禮懺各一卷」とある。

「勸請句弘法大師増法樂」はこの口訣の文。

⑫「次宝号百反」折紙には「大師寶号

百遍

南無遍照金剛」とある。

⑬「尊師御前之所作」折紙には「尊師御前上

庵梅陀娑耶娑婆呵」とある。

庵梅陀娑耶娑婆呵は、弥勒菩薩の真言。

尋一碍、礙

處一處、第—第
坎一歟

勢一勢
獻一獻、獻
寫一寫、写

リツケ給ヘリ故ニ此ノ方ニハ尊師ノ法樂ニ誦スル弥勒ノ真言一
也 扱^テ日中ノ之時了^テ掃^ニ除^シ道場一拭^ニ壇佛具等一
莊嚴スル也 他流ニハ莊嚴日トテ其ノ定メ有^レ之歟此ノ方ニハ
毎日掃除莊嚴スレハ其ノ沙汰无^レ之但シ瓶花ハ不^レ依二日数
ノ定^メニ少シ凋時罷^テ取^リ替^{ユル}也 莊嚴了^テ入堂スル也
謂ク伽藍順礼也 若シハ後夜以後ニ入堂スル也 但毎日
不^レ違^ル也 違^ニ時尅^ヲ於^ニ諸堂ニ行中無^ニ障尋一悉地成就ノ之旨
能^ニ可^ニ祈請^一當山ニテハ諸堂巡礼スルヲ云^フ入堂^ト 他
處^ニニテハ金剛峯寺入堂次第^ト云有^レハ之高野山^{ナドニテモ}云^ニ入
堂^ト坎^一而^ノ從^ニ開白ノ日^一當^ニ二百一日^一日中ノ時^ニ結願^{スル}
也 扱^テ毎日ノ闕伽水ハ必行者自^ラ可^レ汲^ム水丁^ニ受者
阿闍梨教授有^ニ作法^一四度ノ時^ハ其作法无^レ之行者許^リ
汲^ム之也 必汲^ニ井花水^一夜^ル寅^ノ尅^{ヨリ}水ノ勢^ニ増^シ井^ニ
スル^一也 十八道ノ次第書寫暗誦等ノ義ハ至^ニ二十八道^一
可^ニ沙汰^一云^ニ次十八道ノ次第讀渡

率

右一帖者相美之秘旨散口紙也 為_レ恐_二散脱_一率集記
焉不可及他見者也

莒

苾莒 性善誌

害 寶
辱 書

審曆八年^⑭ 歲次戊寅 秋九月五日夜初更以 師主和尚之御本辱
寫功畢

乞士妙靜^⑮

明和七年^⑯ 龍集庚寅 中秋朔日妙靜和尚以御本書寫畢

求法照峯^⑰

照

⑭ 審曆八年は西曆一七五八年に相当する。

⑮ 妙靜師については不明であるが、妙靜記とする寶曆八年写の『薄諸尊法散供紙』の享和三年（一八〇三）の再転写本が、高野山の寶龜院に所蔵されていることが、仏書解説大辞典第一卷二二五頁の第四段に記されており、書写されている『薄諸尊法』や書写年代から見て同一人と思われる。

⑯ 明和七年は西曆一七七〇年に相当する。

⑰ 照峯師については前に記したが、『新編成田山史』二〇二～二〇三頁。

(外題)
十八道傳授口決^①

十八道讀ミ渡シ^②

心ニ觀^二吽^一字^一ヲ^{コ、ロニ} 心懷^ニ慈^一悲^一 到^ニ堂^一門^一前^ニ 称^二吽^一ノ

声^一ヲ^{エラ} 見^ニ道^一場^一ノ内^ニ 諸佛遍滿^{シタマヘルヲ} 此ノ句ニ有三

点^一 一ニハ見^ニ道場^一ノ内^ニ 諸佛遍滿^{シ玉ヘルヲ} 一ニハ見^ニ道

場^一ノ内^ニ 諸佛遍滿^{シ下ヘリ} 三ニハ見^ニ道場^一ノ内^ニ 諸佛遍

滿^一シ玉ヘルヲ 三ノ内^ニ 用^ユ初^ヲ 普禮ノ真言御本ニ言ノ下ニ曰ノ

字有^レ之 塗香入^ニ陀^一ノ手^一掌^一ノ中^一ニ 三密觀即チ想ヘ

掌^一ノ中^一ニ 蓮花部令^ニ獲得^一 灑水洗^一淨^一 ス又ハアラヒキヨム 覽

字觀心。中^ニ壇^一 中誦^ニス^一 字^ニ三反^一 又ハ誦^ニス^一 字^ニ三反^一

觀佛虛^一空^一ノ中^一ニ 四方結^ニ旋^一 遶身^一 道場觀^ニ坐^一 自^ニ在^一 王^一

宝車輅^ニツ^一ノ掌^一 乘^ニシ玉^一ヘリ 此ノ車^一輅^ニ兩点有^レ之

請車輅^一空^一ノ中^一ニ 虛空網御本虛空結^ト有^レ之 礼佛名号

虚 虚
網 網

観 観
灑 灑

①この『十八道傳授口決』も外題のある共紙の表紙の上に、更に貼り外題のある別の表紙が加えられている。

②当流十八道の念誦次第として用いられる『聖如意輪觀自在菩薩念誦次第』を伝授するのに先立って、読み方、読み曲等の氣を付けねばならないことを教示すること。

漢—漢

根本印平^{ヘイシヨウ}—掌平^{ヨウ}ノ字漢音^ニ讀^ム之^ヲ 字輪觀^{ナシテ}作^ニ弥^一陀^ノ
定印^{一ヲ} 曩謨摩訶^一—ナウボウ^ト讀^ミ玉^フ 曩謨阿闍已下
ナモト讀^ミ玉^フ

已上初日

第二日

第 第

観 観、観

薩 薩

言 護摩

契 契

灑 灑

十八道次第傳授

① 聖如意輪觀自在菩薩念誦次第

師口ニ云今ニ此ノ次第ハ者延命院元杲ノ從_レ開山_ニ第四_ニ祖師也御製作

也又タ石山ノ之淳祐ノ第三_ニ代目ノ祖師也御作ノ次第第四度共ニ有_レ

之然_レ用_ニ延命院ノ次第_一也_{延命院御作ノ次才_ニ四度言_ハ迄悉ク有_レ之於_ニ外也此ノ法_ヲ云_フ「十八道_一者就二十八之契印儀軌ニ称_レ}

之ヲ也先ツ加_ハ行七十五日滿_テ後書_ニ寫_ス次第_ヲ書_ハ写_レ

了_テ次第_ヲ傳_ハ授_シ暗誦稽古等為_レ之也若シ各別鈍根ノ

行者ナラハ少_ミ引_キ上_ケテ七十五日ニ不_レ滿_セ書写等可_レキ

許ス也若シ又タ百日ノ中ニ諳誦稽古等不_レハ成就_セ上

古ヨリ延_ハ行_ト了_リ了_リ之是_レハ必ス為_レ也令_ニ暗誦_一也

暗誦ノ儀等具_ニハ各如_ニ修行ノ時_一也壇上ノ莊嚴等ハ

如_ニ加行_一但シ壇上ニ鈴五古金剛盤ヲ置_キ脇机ニ灑

水塗香并_ニ散_ハ杖ヲ置_ク迄ノ義也加_ハ行當_ニ二百一日_一

①(表)には内題に『聖如意輪觀自在菩薩念誦次第』とあるが、表紙には『聖如意輪觀音念誦次第』の貼外題がある。

眨時

尔爾

日一中ノ眨ニ結願ス其ノ晩ノ初夜ノ眨ヨリ開ニ白ス十八道一也 上古ハ從ニ加行結願ノ日一直クニ正行百日行レス之ヲ尔ルニ 正行百日間ニ若シ父母ノ忌ミ等ノ作障有レ之眨キハ非ニ正行破ル、耳一ニ加行共ニ破ル、故ニ祖師ノ御了簡ニテ今ハ初行トテ先ツ一七日行ノ當ル二八日一日一中ノ眨ニ結願シ而正行一百ケ日行レス之ヲ加行正行一ツナレハ正行有ニ障一加行共ニ破ル、故ニ先ツ七日行ノ結願シ而正行百一、日行レスル之ヲ則キハ假令ヘ有レ障正行ハ破ル、而加行ハ不レ破レ故ニ畢竟初行モ正行ノ中ヲト可ニ心得一也

行者欲入道場乃至塗^②二手^{文 傳受ノ眨ハ具ニ讀ム之 筆記ノ眨寫レ之} 師口ニ云是ヲ

云ニ房中ノ作法ト也 諸尊法ニハ畧ノ自房中至佛一前作法如レ常ト云ヘリ今ハ具ニ出レリ之上古ハ房中ニ安シ脇一机一脚一上ニ置ニ塗香 漂水器一漂水 塗香ノ詣セシト于道場一也 石山ノ脇一机ノ記ト此ノ記常ニ置ニ脇机ニ眨一云フ書物ニ房中ノ作法有レ之也 今ハ其ノ沙汰無レ之行者欲レハ入ニ

②この「乃至」のところには、『聖如意輪觀自在菩薩念誦次第』（以下『念誦次第』）④には「之時ニハ先ツ洗レ手ヲ漱レ口ヲ著ニ淨衣一已テ香水ヲ灑レ身ニ塗香ヲ」の一七字が入るのであるが省略されている。

以下省略されている部分には、この「念誦次第」によつて補うことにする。

左
右

観
視
訖

道場ニ^ニ先^ツ洗^ヒ手^チ漱^メ口^改內衣^着ノ常^ニ用^ル衣袈裟^一
入^ニ道場^一脱^ニ着^{タル}衣袈裟^一疊^ミ置^キ傍^ニ置^{キタル}道場^一
加^コ持^テ衣袈裟^一可^レ着^ス之^ヲ先^ツ取^テ上^ヘナル袈裟^一置^キ
便^一宜^ノ處^ニ^脇次^ニ取^テ衣^ノ襟^ヲ掛^ニ左^ノ腕^ニ右^ノ手作^ニ
小^三古^ノ印^ニ誦^フ字^三反^ヲ加^一持^{スル}三度又取^ニ袈裟^一
掛^ニ左^ノ腕^ニ之衣^上ニ如^ク前^ノ加^一持^三反^也次^ニ取^テ袈裟^一
又^タ置^ニ便^宜ノ處^ニ而^一立^チ去^テ本尊^ノ不^ニ正^面一^ナ傍^ニ着^レ
衣^ヲ而^レ着^ス也袈裟^一也是^ニ又^一ノ說^有レ之謂^ク加^コ持^ノ衣^一
先^着レ衣^ヲ次^ニ加^コ持^ス袈裟^一又^着ト也袈裟^一也着^ニ衣^一
袈裟^一了^テ雖^ニ次^一第^ニ無^一レ之護身法結^ス誦^ス耶^一謂^ニ淨^三
業^一三部^一被^ニ甲^一如^レ常^ノ^{今ハ三密規除之ヲ金剛界ノ}訖^{ハ三密規加レ之ヲ也云}出^テ道^一
場^一扉^{ヨリ}一^一間^許リ去^テ二^一手^各々^ニ作^テ金剛拳^ニ左^ヲ安^レ腰^ニ
仰^テ右^ヲ安^レ胸^ニ如^ク文^ノ規^ノ徐^ニ步^ミ到^ル堂門^ノ前^一也
然^ニ初^ニ心^ハ観^念難^キ成^レ故^ニ誦^フ文^ヲ步^ミ行^ク也^{當^ニ住^ニ}
金剛薩埵^ノ威儀^ニ心^ニ觀^ノ々^ハ卽^ニ字^一為^ニ薩埵^一身^ト想^ヒ足^ニ

懷—懷、凡—凡

彈—彈

无—無

兩—兩、變—變

蹈^ム蓮花^ニ一心^ニ懷^{イテ}慈悲^ヲ文^ノ 凡^ソ一切ノ觀想准^レ之^ニ

可^レ知^{ンヌ}又^ハ念珠^ヲ取^テ二^ニ持^ツ左^ノ手^ニ步^ミ行^ク說^モ有^レ

之^也徐^ク步^ミ到^テ二^ニ堂門ノ前^ニ稱^フ吽^ノ聲^ヲ以^テ右^ノ手^ヲ彈

指^ヲ當^レ門^ニ三^ヒ振^ヘ文^ノ 師口^ニ云^ク到^テ二^ニ堂門ノ前^ニ左^ノ拳如^レ

前^ニ右^ノ拳ノ頭指^ヲ彈指^{三度}誦^フ吽字^{三反}三^ヒ振

雖^レ有^ト彈指^{ハカリ}許^ヘ餘^ヲ義无^レ之^而念珠^ヲ二^ニ取^テ持^シ

左^ニ以^ニ右^ノ手^ヲ開^ク扉^也右^ノ手^舒五^指大^指横^ヘ掌^中二^ニ次^ニ入

二^ニ堂内^ニ左^ノ念珠如^レ本^ノ持^ツ漸^々步^ミ行^ク壇^ノ前^ニ金界^ニハ

此^ノ處誦^フ二^ニ吽字^ヲ一^ハ十八道^ニハ不^レ誦^レ之^步行^ク眨^ミ規^想

兩^眼ニ觀^{セヨ}「^③ [㊦]麼吒^ノ字^ヲ右^ニ安^ケ麼^ヲ變^フ為^レ日^ト左^ニ 光明

照^耀セリ以^テ是^ノ淨^一眼^ヲ見^ヨ道場^ノ内^ニ諸^佛ノ遍^滿シ

玉^{ヘル}ヲ 矣 如^レ是^ノ觀^ノ

次^④普禮 金剛合掌^ト 有^レ摺^テ二^ニ念珠^ヲ一^ハ礼^ス上^ニ古^ハ摺^ル

珠^无レ之^是ノ故^ニ金剛合掌^ヲ用^ル也 磨^ル「ハ念珠^一天台^ノ

鳥羽^ノ僧正覺猷^{ヨリ}始^テ自他宗用^レ之^也 今^ハ摺^リ珠^ヲ誦^フ

③この觀想の前に「念誦次第」には、「想へ開^{クト}門^戸」即ち開^レテ^ハ入^テ」の觀想文がある。

④「次普禮 金剛合掌」(裏)には「次普禮 眞言曰 金剛合掌」とある。

言^ヲ礼^ル「礼^ニ様如^ニ」三度 言^ニ三反 礼^シ了^テ龙^ニ珠^二二匣

座—座

次^ニ着座 右ノ足^{ヨリ}上^ニ半疊ノ上^ニ着座^半 隔^ニツ両

雖—雖

足ノ間内^ニ衣^一 次^ニ雖^ニ次第无^ト之^⑤ 弁供ノ作法作^レス^ヲ

舍—舍

火舍右ノ闕 塗 花ノ器如^ク次ノ押^シ直^シ 謂^ク右ノ手^ヲ仰^ケ舒^ヘ五指^ヲ

風ノ四指ノ端^ニ押^ス之^ヲ也 次^ニ龙 闕已下如^シ右ノ金剛界^ニハ 正^ク弁供ノ

規—觀

作法規想等子細有^レ之今ハ无^ト其儀 猶^ヲ非^下為^レ置^シカ

次第^一許^リニ 押^シ直^スニ 故^ニ龙^ヲ手^ヲサヘテ聊^ニ押^シ直^ス

之^一也 龙ノ珠^二二匣如^シ元ノ 右ノ手大指^ヲ入^レ掌^ニ以^テ餘

指^一燒並^ニ左右ノ闕等^ヲ押^シ直^ス也 但^シ右ノ闕 塗 花ハ

為^レ置^ニ次^一第^一深^ク先^ヘ押^シ直^ス也 次^ニ開^ニ次^一第^一次^ニ

聊—聊

念珠聊^カ押^シ摺^テ取^ニ三匣^一向^ニ二母珠於本尊方^ニ置^ニ脇

灑—灑

机ノ上^ニ也 灑水 塗香 念珠置^ク次第ノ事小野方^ハ如^レ

次定戒恵ノ次第也 廣沢^ニハ 戒定恵ノ次第^ニ置^レ之

次^ニ普札 印明^ハ如^レ前^ハ印金合^シ言^シ如^レ前^ノ三反誦^レ之

次塗香 先^ツ以^ニ右ノ手ノ風空^ヲ取^テ蓋^ヲ置^キ之^以同^キ二

⑤「弁供」裏には、この項無く古い次第のままであるが、⑥には「寂照曰ク御本^ニハ雖^レ不^レ載^レ之依^テ師傳^ニ私^ニ加^レ之^ヲ」として、「次辨供」を加えている。⑥にも加えているが押し直すのに「可^シ用^ニ小三貼印^ニ」としている。

辟—臂、眈—時
規—觀

空—密、觀—觀
矣—矣

華—華、花

斷—斷

惱—惱

指ヲ取レテ香ヲ蓋並ニ香已ニ達ハ入テ左ノ掌ノ内ニ左右ニ三反移レ之ヲ以レ右取レ数ヲ右ニ三度移ノ而ヲ反ヘシ移ノ左ノ掌ニ而塗ニ兩手腕辟等ニ塗レ之ヲ眈規念想レ「磨ニ瑩スト五分法身ヲ五分「法身ト者戒定慧一解脫⑥解脫」智見也

⑥「解脫智見」(眞)には「解脫知見」としてゐる。

次三密觀 蓮花合掌矣 當流ニハ二中指ノ端シ少シ開ク也 廣沢ニハ不レ開カ 但シ當流ニモ印母ノ時ハ不レ開只タ

云ニハ蓮花合掌ト二中指ノ端シ少シ開ク 觀想 想掌中「舌

及ヒ心ノ上ニ有ニ月輪ニ其上ニ有ニ八葉ノ蓮花ニ其上ニ有ニ

吽字ニ變フ成ニ五股杵ニ放ニ光明ヲ斷ニ淨ス身口意ノ中ノ煩

惱ニ不淨ニ矣 誦ニ吽字ニ三反ヲ

次淨三業 即以ニ前ノ印ヲ矣 蓮花合掌也 觀セヨ一切ノ

「法ハ本性清淨ナル」猶シ如シ蓮花ノ不ニ三カ染ニ淤泥ニ我モ亦

獲ニ得ス」三業清淨ナルヲ矣 加ニ持ス五處ヲ每ニ處ニ各誦ニ

真言ニ一反ヲ合ニ五反也

次佛部三昧耶 印相如ニ説文ノ 想ヘ「佛部ノ諸尊加ニ

⑦「吽」(眞)には梵字の「𑖀」を用いている。

⑧「吽」(眞)には梵字の「𑖀」を用いている。

増―増

肅―肅

持護^三念^ノ修眞言者^ヲ速^ニ令^レノ^テ獲^ニ得^セ身業清淨^{ナル}「罪障消滅^シ福智[」]增長^ス矣 明三反以^レ印^ヲ印^ニ於^一頂^ヲ此^ノ印^ハ佛^ノ頂^ノ形也 故^ニ印^ニ於^一頂^ヲ也

次蓮花部三昧耶 印相並^ニ印處如^レ文 觀^{セヨ}「蓮花部^ノ

聖衆加^ニ持^ノ行者^ヲ速^ニ令^三獲^ニ得^セ語業清淨^{ナル}「言

音威肅^ニ令^二人^ヲ樂^ハ聞^シト無礙辯才^ニ說法[」]自在^{ナリ}

矣明三反

次金剛部三昧耶 印相印處如^レ文 觀想 想^ヘ「金剛部^ノ

聖衆加^ニ持^ノ行者^ヲ獲^ニ得^{セシメテ}意業清淨^{ナル}「證^シ菩提

心^ヲ三昧現前^ノ遠^ニ離^ノ罪障^ヲ速^ニ得^ニ解脫^ヲ矣明三反

次被甲護身 印如^レ文ノ觀想 「想^ヘ得^レ被^{キル}」如來ノ大慈

大悲ノ甲冑^ヲ遠^ニ離^シ諸魔一切ノ障礙^ヲ煩惱業垢身^ニ不^ニ染

著^セ脫^ノ諸ノ惡趣ノ苦^ヲ證^ス無上[」]菩提^ヲ矣明五反五處加持

「次」加持香水 先^ツ以^ニ右ノ手ノ風空^ヲ覆^ニ塗香器^ノ

蓋^ヲ而^ノ取^ニ灑水器^ノ蓋^ヲ置^ニ塗香器^ノ蓋^ノ跡^ニ即以^ニ其^ノ二

水丁―灌頂

指一取ニ念珠ノ母珠ヲ移ニ龙ノ手ニ右ノ手作ニ小三古ノ印ニ
印相如レ文ノ已達ハ異レ之ニ取ニ器ノ蓋ニ等已達ハ惣テ龙ノ
事ハ以ニ龙ノ手ヲ弁レ之ヲ未達ハ未水丁ノ人也用ニ右ノ手ヲ今ハ四度ノ
行者必ス用ニ右ノ手ヲ也而ノ向ニ水器ニ加持<sup>當流ノ加持ト者以レ
印如スル也打ノ着器ニ</sup>
^{勢ノ非レ旋ニ轉スルニ} 卅一反 誦^ルモ明卅一反 次以ニ右ノ手一

取テ散杖ヲ水器ノ端ヲ一ツ打テ

覽―覽

次ニ入ニ水器一 觀想 觀セヨ「水ノ底ニ有ニ覽字^{ヲシテ}一起ニ火炎一

燒―燒

燒ニ淨ム水中ノ不淨ヲ矣 攪^レテ水ヲ誦^ニ覽字ヲ順ニ

鏤―鏤

加^一持スル「二十一反了テ器ノ端ヲ一ツ打テ又入レ水ニ觀
想 觀セヨ 水ノ底ニ「亦有ニ鏤字^⑩一流ニ出ス清淨ノ乳水ヲ矣

戲―戲

誦^ニ鏤字一逆ニ加^一持ス 卅一反此ノ加持ハ未達已達共ニ同ク
順逆フ次第也 加^一持畢テ器ノ端ヲ一ツ打テ入レ水ニ又タニツ
打^テ散杖ヲ胸ノ程ニ持^レ之ヲ觀想 想ヘ「以ニ毗盧遮那鏤字^⑪
大悲ノ之水一灑ニ我^レ及ヒ一切有情ノ菩提心大地ニ洗^ニ淨ス
百六十心ノ戲論」垢ヲ一矣 先ツ順ニ三タヒ廻シ 次ニ上下ニ三

⑨ 「覽」^眞には梵字の「𑖦」を用いてゐる。

⑩ 「鏤」^眞には漢字音寫字を「覽」とし、梵字「𑖦」を併記してゐる。

⑪ 「鏤」^眞には梵字の「𑖦」を用いており、^眞には漢字音寫字を「鏤」とし、梵字「𑖦」を併記してゐる。

⑫ 「鏤」^眞には梵字の「𑖦」を用いており、^眞には音寫漢字を「鏤」とし、梵字「𑖦」を併記してゐる。

尔—爾、陰—陰

度轉^レ之^ヲ而^ソ又^タ器ノ端^ヲ一ッ打^テ入^レ水ニ又^タ一ッ打^テ灑^ク
如^レ前^ノ但^シ觐^ノ想^ノ文^ハ不^レ誦^レ之^ヲ又^タ器ノ端^ヲ打^チ入^レ水ニ灑^ク
等如^レ前^ノ而^ノ散^ル杖^ヲ置^キ本處ニ覆^ニ器ノ蓋^ヲ也 從^リ東北ノ
角^一散^トハ^一之^ハ是^ハ角^ニ兩部不^ニ一^ノ方^ノ故^ニ從^ニ此^ノ角^一始^レ
之^ヲ自^一宗^ハ以^ニ不^ニ二^ヲ為^レ本^ト、故^ニ五色ノ糸引等諸事從^ニ
東北ノ角^一始^レ之^ハ皆^ナ此^ノ意^ロ也 十二支^ノ中^ニ丑寅ハ
晝夜二分^ノ中間也 尔^ヲ晝夜^ヲ分^チ陰陽^ニ々々^ヲ配^ニ兩
部^一其^ノ中間^{ナル}故^ニ云^ニ兩部不^ニ一^ノ方^ト也 息災ノ壇^ハ行
者向^レ北^ニ修^スレハ^オ自^ラ從^リ東北ノ角^一始^レ之^ヲ假^レ令^ヒ向^ニ
余方^一修^ル運^心從^ニ此^ノ方^一散^{スト}之^ヲ可^レ思^レ之^ヲ

次^ニ置^ク念珠^一但^シ已^ハ達^ハ加^テ持^テ供^テ物^了置^レ之^ヲ器ノ蓋^モ
此^ノ時^キ覆^フ之^ヲ也 散^ル杖ノ事^ハ梵國^ニハ用^ユ茅草^ヲ一又用^ル柳^ハ
水^一性^{アル}木ノ故^也 梅^ハ自^ラ香^ヲ木ノ故^ニ用^ユ之^也
灑^ル水^ニ入^ルヲ^ハ香^者水^ニ有^ニ清^淨ノ德^一香^ニ有^ニ徧^至ノ功^一
今^マ以^テ香^ヲ和^スレハ^ハ水^ニ則^ニ普徧^ト清^淨トノ功德具足^{スル}カ故^也

也

「次」加持供物 左ノ拳安^レ腰^ニ右ノ手如^レ文順逆各三轉明合^ノ六反也 是^レハ已達^ハ逆順ノ次第^也余^モ准^{セヨ}之^ニ枳里^ミノ真言^ト者 唵枳里^ミ縛日羅吽發吒^ノ明也

「次」覽字觀 印如^レ文ノ 觀想 觀「覽字有^ニ頂上心中壇中地下^ニ變^ル成^ル火輪^ト三角赤色^ニ燒^キ淨^ム是^ノ身及ヒ器界ノ中ノ垢穢」不淨^一矣 誦^ニ覽字三反^一

「次」淨地 印如^レ文ノ不^レト散^セ前ノ印^一者ハ金剛合掌ヲ當^レツル心^ニ也

觀^{セヨ}「一切法ハ遠^ニ離^ス塵垢^ヲ誦^{スレハ}此真言^一器界」清淨ナリ矣 言三反

「次」觀佛 印如^レ文ノ 觀「虚空ノ中^ニ如來ノ遍滿^{シ玉ヘル}猶^シ如^シ胡麻^一則誦^チ遍照ノ明^一歷然^ト見^{上ル}」諸佛^一矣
歷然^ハ漢音^ニ讀^ム也 明三反

次金剛起 印如^レ文ノ 但^シ二地鈎結此ノ印^一名^ク驚覺^ノ

⑫ 「覽」^典には「曉」、^長には「覽」とある。

⑬ 「覽」^典には梵字の「𑖦」を用いており、^長には音写漢字の「覽」と梵字「𑖦」を併記している。

カ―第

虚―虚

皈―歸

印^{一ト} 真言^{ヲモ} 亦^タ名^ニ驚覺^ノ真言^{一ト}文^ニ作^{レト}金剛拳^{一者ハ}是^レ

印^{一母也}凡^ソ一切^ノ印^ニ皆^ナ印^{一母有レ}之 謂^ク十二合^一

掌五^一種^ノ拳六^一種^ノ拳等^也 十一合掌^{疏^ヲ十三卷^ニテ委^ニ悉^ニ也} 者

一^{ニハ}者堅実心合掌 才^{二ニハ}虚心合掌 第三^{ニハ}如未

開蓮合掌 第四^{ニハ}初割之蓮合掌 第五^{ニハ}顕露合掌

第六^{ニハ}持水合掌 第七^{ニハ}皈^{亦ハ名^ヲ金剛合掌}命合掌^一 第八^{ニハ}

返又合掌 第九^{ニハ}返背互相着合掌 第十^{ニハ}横柱指合

掌 第十一^{ニハ}覆手下合掌 第十二^{ニハ}亦覆手合掌也

五^一種^ノ拳^{ト者ハ}一^{ニハ}金剛拳 一^{ニハ}蓮花拳 二^{ニハ}如来

拳 四^{ニハ}内縛拳 五^{ニハ}外縛拳也 是^{レニ}加^二忿怒拳^一

為^{ニス}六種^ノ拳^{一ト也} 今^ノ印^{一母ハ}金剛拳也 文^ニ以^レ印三

拳^{ト有レ}之雖^レ然^ト進力^ノ端許^リ三^ヒ拳^レ之 結^レ印^ヲ 觀

「想驚^ニ覺^ニシタテマツルニ一切如来^一皆起^レ定^ヲ出^テ各^々以^二神

力^ヲ加^二持護^ニ念^{シ玉フ}修瑜伽^一者^一矣 二風三^ヒ拳^ク明三

反

⑭「疏第十三卷^下」大毘盧遮那成佛經疏」第十三卷密印品 大正新修大藏經 三九卷 七一四頁下段、七一五頁上段に十二合掌を説いている。

⑮「五種拳」「大毘盧遮那成佛經疏」第十三卷密印品 前註⑭七一五頁下段に四種拳を説き、これに如来拳を加えて五種としている。更に忿怒拳を加えれば六種拳となる。

「次」普礼 金剛合掌 明一反 壇前普礼并ニ着座普
 礼ハ礼ニ本尊并ニ諸尊一故ニ明誦三反 今ハ偏ニ礼ニ本
 尊一故明誦ニ一反一也

次啓ニ白事ノ由一^一文 是レ表白也 開白ノ座用レ之從ニ

後夜一不レ用レ之 先ツ取テ念珠ヲ二匝ニ^ニ持ニ^ニ左ノ手ニ金

二丁 已^一達ハ念珠并ニ香呂取レ之ヲ表白ノ詞ニ云ク 敬^⑮テ

白^⑮眞言教主大日如來「兩部界會諸尊聖衆殊ニハ本尊

聖者如意輪觀自在菩薩蓮花部中諸尊聖衆外金剛部護

法天等惣^⑮ハ佛眼所照微塵刹土帝網重重三寶ノ境界ニ

驚一言^一サク矣 是レ迄^一云^一神下一^一已^一達ハ此ノ時^一置ニ香

呂一表白有レ別可レ唱レ之ヲ

次神分析願 開白ノ座ニハ表白了^テ 抑ニ三密修行之處

滅罪生善之砌^一ナレハ法味飡受^一為ニ定^⑮シテ降臨影向シ給ラン

尔^一レハ則奉レ始ニ外金剛部ノ金剛天等^一ホト云 已^一達ハ

自^一レ云レ抑ト取ニ香呂一^一是レ表一白有ル時ノ様也 無ニ表白一

尔—爾、ホ—等

⑮この表白の文は、⑮の二十三丁右に「十八道初行表白」として掲出されている。

⑮では冒頭「謹ミ敬テ」で始まっている。
 ⑮「如意輪觀自在菩薩」⑮には「大聖如意輪觀自在尊」としている。

⑮「法味飡受ノ為ニ」の後に⑮には「冥衆」を加えている。

呪時

經經、經

呪ハ已達珠并ニ香呂取_レテ之_ヲ金二打 未達ハ念珠持_レ之_ヲ

金二丁 令法久住等_云但シ表白有_レ之呪ハ表白ノ初ニ金

二ッ打_テ此ノ時_キ不_レ打_レ金_ヲ令法久住等ノ句并ニ三部ノ金

不_レ用_レ之_ヲ也 何_レノ時_{ニモ}一切神分ニ般若心經_{ト云フテ}

金一丁 已達ハ此ノ時_ニ置_ニ香呂_{一ヲ}般若心經一卷唱_ヘ

之_ヲ了_テ 大般若經名金丁

神分析願 別_ニ有_レ之_⑩當山住居ノ僧ハ三國傳燈之句ノ

次ニ必ス三代聖靈句可_レ加_レ之_ヲ祈願ノ仰乞ノ處ニテ

摺_ニ念珠_{一ヲ}唱_レ之_ヲ晴儀ニハ心_一中ニ祈願_ヲ不_レ摺_レ之 但シ

晴儀_{ニモ}御_シ祈_リ等ノ修法_{ニハ}必ス摺_レ之也

「次」五悔 念珠_ヲ掛_ニ左腕_一作_ニ金掌_{一ニ} 一切恭敬敬

禮常住三寶

「次」淨三業ノ明一反_{同_レ上_三金合}

「次」普禮ノ明一反_{合金} 文_ニ印明皆_ナ如_レ上雖_レ有_レト之用_{ニユ}

金掌_一是_レ口傳也 今淨三業ハ礼ノ之義有_レ之故用_レ之_ヲ

⑩「神分析願」④には二十八丁左ノ三十丁左に掲出されている。

也

次ニ歸命十方等五悔悉ク誦シ畢ル

「次」發菩提心印如レ文明一反

「次」三昧耶戒同斷

「次」發願 取ニ念珠ヲ二匣ニ「龙」持レ之金丁 發願及五

大願唱レ之已達ハ珠ト杵ト共取レ之也

次五大願 已達ハ菩提无上誓願證ノ次ニ護持佛子成所

願ノ句ヲ唱レ之タ 今マ十八道ニハ 不レ唱レ之

②①「次」普供養印明並三力偈等 先ツ珠ヲ掛ニ「龙」腕ニ金掌

二風宝形ニ空並「立」テ、明一反軌ニハ三反ト有レ之雖レルト

一反誦レ之ヲ師傳也 次ニ不レ散レ印ヲ唱レ偈了テ取レ珠ヲ

直ノ金一丁而ソ置レ珠ヲ也 又ノ説ニハ五大願ノ終ニ置テ珠ヲ

結コ誦シ普供養ノ印明一畢テ又取レ珠ヲ金丁置レ珠ヲ也

両ツノ中用ヒ来レリ前ノ説ヲ一矣

次大金剛輪 印如レ文ノ 是ノ印輪ノ形ヲ表ス也八幅十一幅等何シ幅ノ

②①「五悔」は真言行者必須の行願である
至心歸依（歸命）、至心懺悔、至心隨喜、
至心勸請、至心廻向である。

②①「次普供養印明並三力偈等」(長)には「次
普供養」と「次三力偈」の別項にして
いる。

輪ニモアレ表ニ一幅
形ヲ也云

故ニ二中ヲ少シ作ニ円形ニ也 観想「想へ

除ニ諸ノ越法ノ重罪²²ヲ得ニ三昧耶ノ功德具足^一」ヲ 矣 明

三反 是レモ 儀軌ノ本説ハ七反トアレ^レ 師傳ニテ用ニヒ来レリ^三

反^一 此ノ印明ハ十八髻印ノ外也 依ニ師傳ニ加レ之

次金剛槩 印如レ文 掌ヲ向ヘテ下ニ 観想 想ヘ如シ「金剛

杵^一以ニ二大指^一向ヘテ地ニ觸レヨ之ヲ至ニ^二金剛輪際^一ニ即チ

成ニ金剛不壞之界^一ト大力ノ諸魔不レ能ニ揺動スル^一地中ノ

穢惡悉^レ得ニ清淨^一」ヲ 矣 以ニ二空ノ頭^一印ス地ヲ 獨

一古杵ト観^レニ^二印^一地ヲ明ニ反

次金剛牆 印如レ文 但シ掌^ロヲ向レフ身ニ文ニ地界ノ印ト

者地結ノ印也 観想即 想「從レリ印流ニ出ス熾焰^一ヲ以レテ

印^ヲ右ニ旋^ニ遶^{身^ヲニ}三轉^{スレハ} 隨^ニ心ノ大小^一ニ即チ成ニ金剛

堅固ノ城^一ト諸魔惡人虎狼師子及ヒ^ニ諸ノ毒虫^一不レ能ニハ附^レ

近^一スル^一 矣 以レテ印ヲ順ニ三轉明三反 地結 四方結ノ二

種^ヲ名ニ二十八道ノ結界ノ法^ト

²²「諸ノ越法ノ重罪^ヲ」²³には「諸ノ越法
等ノ重罪^ヲ」としている。

²³「右旋遶」²⁴には「右」の字無し。

²⁴「諸ノ毒虫」²⁵には「諸」の字無し。

網—網
臺—臺

斷—斷
繞—繞

「次」道場觀 印相如^レ文 觀想 觀「念^{セヨ}前^ニ有^ニ𑖀字
一變^ノ成^ル寶殿樓閣^ト其内^ニ有^ニ壇場^一四面^ニ皆有^ニ階道^一
寶樹行列^{セリ}皆垂^ニ環珞羅網^ヲ其壇場ノ上^ニ有^ニ𑖀字^一
變^ノ成^ニ紅蓮花臺^ト其上^ニ有^ニ𑖀字^一變^ノ成^ニ滿月輪^ト上^ニ
有^ニ𑖀字^一其左右^ニ亦有^ニ𑖀字^一其三字變^ノ為^ニ金剛
寶蓮^ト寶蓮變^ノ為^ニ本尊^ト六臂^ニ身金色^{ナリ}頂髻^ニ有^ニ寶
莊嚴ノ冠^一坐^ニ自在王^一住^ニ說法ノ相^ニ身流^ニカス千^一
光明^一項背^ニ圓光^{アリ}右ノ第一ノ手ハ思惟^{セリ}第二ノ手ニハ
持^ニ如意寶^一第三ノ手ニハ持^ニ念珠^一左ノ第一ノ手ハ按^レ山^ヲ
第二ノ手ニハ持^ニ蓮花^一第三ノ手ニハ持^レ輪^ヲ六臂廣博ノ體^ニ
能^ク遊^ニ於^ニ六道^一以^ニ大悲方便^一斷^ニ諸^ノ有情^ノ苦^一八
大觀音及^ヒ蓮花部^ノ無量^ノ眷屬前後^ニ圍繞^{セリ}矣 如^レ是
觀^シテ加^コ持^ス七^一処^一印処如^レ文壇地^ト者四度ノ行者
令^ム印^中壇^下与^ニ半疊^一間^{タノ}之地^上已達^ハ觀想^ノ印^ニ壇^ノ
中心^ノ之地^一每^レ處^ニ明^一反 合^フ七反 觀想^ニ此^ヲ
印^ニ眞言^ヲ

25 「亦」長に無し。

26 「有」寶莊嚴ノ冠」與に「有」の字無し。

27 「自在王」與には側に「弥陀佛」を小字で註している。

28 「流」カス千ノ光明」與には「流」出シ千光明」とある。

加持^ニ故^ニ變^ニ此世界^ヲ 矣
成^ニ清淨^ノ刹土^ト

「次」大虛空藏 二火二風如^レ文地水立^テ合^セ二空並^ハ
立^ツ 觀想 想 「從^レ印流^ニ出^ノ無量^ノ諸^ノ供具衣服飲
食宮殿樓閣等^ヲ於^ニ本尊及^ヒ一切聖衆^ノ前^ニ則^チ成^ニ就^ス
眞實廣大^ノ供養^ヲ矣 明三反

「次」小金剛輪 印如^レ文^ノ但^シ二地二風鈎結^{スル}也 印^ヲ
向^テ身^ニ 觀念 「由^ニ此加持^ニ成^ル諸^ノ輪壇曼荼羅及^ヒ廣
大^ノ供養^ト」矣 五処加持言五反 次^ニ返^レ印^ヲ仰^ケテ置^テ
頂上^ニ虛空^ト壇上^ト本尊諸尊^ト供物等^ト印^レ之言四反
合^ノ九反而又^タ印^ヲ向^ヘ身^ニ二手引^キ開^テ打^チ懸^{クル} 肩^ノ
方^ニ樣^ニ而收^レ口^ニ也 已^ハ達^ハ又有^リ別^ノ作法^一

「次」寶車輅 印如^レ文^ノ前^ノ方少^シ開^テ二風少^シ令^ム円^{カラ}
車^ノ輪^ノ意 先^ツ誦^{スル}也 觀念^ノ文^ヲ想^ヘ「七寶莊嚴^ノ車輅^ヲ
奉^{レル} 送^リ諸佛^ノ淨土^ニ本尊並^ニ諸^ノ大菩薩眷屬無量供
養^ノ菩薩圍繞[」]乘^シ玉^{ヘリ}此車輅^ニ矣 二大外^ヘ撓^ヒ去^{クル}」

乘—乘

三度明三反

「次」請車輅 印相如_レ前 観念 觀想_{セヨ}「諸尊聖衆乘_二

此寶車_一來_二道場_一空中_二而_一住_シ玉_{ヘリ}矣 二大向_レテ内_二

三_レ召_ケ明三反 文_二召_二中指頭_一 雖_レ有_レ之正_ク不_レ尔

スルニ 只内_ヘ召_ケト云フ義也

次召請 印如_レ文 右ノ空三_レ召_ケ明三反此ノ印軌_{ニハ}

云フ請本尊ノ印_一故_二別_一召_二請_{スル}本尊_一印也

「次」四明 印如_レ文 忿怒拳_ヲ為_二印母_一成_レス之_ヲ 忿

怒拳_ハ者先_ツ金拳_ニ二地_二風各_一優_ケテ鉤_{スル}也 四辟ノ

不動ノ上ノ二手此ノ印也 先_ツ忿怒拳_ニ二地_二鉤_一結_ノ屈_二

二風_一 観念 「由_二此四明ノ印_一如_レ次ノ誦_二四字_一」召_シ

引_シ縛_シ令_レ喜_セ矣 誦_ノ弱_ヲ進力俱_ニ鉤_シ 誦_ノ吽_ヲ合_ニ

指ノ面_一 誦_レ鉞_ヲ鉤_一結_シ 誦_ノ斛_ヲ合_セテ腕_ヲ振_レフ之_ヲ也

四明如_レ次鉤索鎖鈴也

次拍掌 先_ツ両手共_ニ伸_ヘテ五指_ヲ二空横_レテ掌_ニ観_ノ

辟—臂

②⑨「優」とあるが「偃」の写誤か。

文 令^ム聖衆ヲノ歡喜^セ一矣 誦^{スル}此ノ文ヲ間^ニ一手互^ニ
 向^レヘテ掌^ヲ三舞^儀ス 次^ニ伸^ニ二大^ヲ各^ミ付^テ風ノ側^ニ
 三^ヒ拍掌ス明各^ミ一反合ノ三反也此ノ舞^儀ニ有^ニ二樣^一
 一^ニハ如^レ先ノ又^ハ他流^ニハ掌ノ面ヲ向^レテ身^ニ如^レス纏^レフ
 物^ヲ也 拍^掌ニ又^タ有^ニ二說^一 一^ニハ初^ノ二^ヲ續^テ密^カニ打^テ
 後^ノ一^ツヲ作^レノ声^ヲ拍^ツ之^ヲ又^ハノ說^ハ初^ノ一^ツヲ強^ク拍^レ之^ヲ
 後^ニツ^ヲ密^カニ拍^レ之^ヲ 此^ノ方^ニハ用^ニ初^ノ說^ヲ也
 次馬頭明王 印如^レ文二風二水入^ニレテ掌内^ニ合^レス甲^ヲ
 此^ノ印^ハ馬頭明王^ノ三昧耶形^白馬^メ頭^ヅノ形也 以^レ
 印^ヲ順^ニ三^ヒ轉^ス明三反是^レニ有^ニ又^ハノ說^一順逆旋轉各三
 度^ト両說^ノ中^チ用^ニ前^ノ說^ヲ
 「次」金剛綱 印如^レ文 印ノ面ヲ向^レヘテ下^ニ上^レテ印^ヲ先
 誦^ニス观想^ノ文^一ヲ 想^ヘ「於^ニ上方^ニ覆^フ金剛綱^ヲ上界^ノ諸天
 不^レ能^ハ障難^一」況^ンヤ 餘類^ノ者^ヲヤ 更^ニ不^レ可^レ言^フ
 矣 順^ニ三^ヒ轉^ス之^ヲ明三反 印^ヲ於^ニ額^ノ前^ニ印^レ之^運

兒貌

心ノ想^下於^ニ頂上^ニ轉^上ス^レ之^ヲ

「次」金剛炎 印如^レ文 但^シ印ノ面^ヲ向^レ身^ニ開^キ散^セル

八指少^シ出^セ掌ノ外^ニ 二大指端^シ相^ヒ柱^ヘ作^三三角^ニ是^レ

火大ノ兒^タ也 八指開^キ散^{セル}ハ熾炎ノ形也 結^レ印^ヲ

先^ツ誦^ニ觀想ノ文^一

想^ヘ「從^レ印流^ニ出^ス無量ノ光焰^ヲ以^テ印^ヲ右^ニ旋^{ラス}スコト^三

匝^{スレハ}於^ニ金剛牆ノ外^ニ火焰圍繞^ヲ即^チ成^ニ堅固^ノ火界^一

矣 次^ニ順^ニ三轉明^三反

次大三昧耶 印如^レ文 文^ニ穢^{カス}麥^ト者^訓二烏麥^一餘^一程

大^{ナル}物^也 雖^レ然^ト二風去^ル「二火ノ後^一少^シ計^{リス}ル也 結^レ

印^ヲ觀想 成^ル堅^固「大結界^ト諸ノ天魔不^レ能^ハ」繞^レ

近^一矣 以^レ印^ヲ順^ニ三轉明^三反

獻獻

「次」獻^ス關伽香水^一 先^ニ右ノ空火^一器ノ下ノ盤ノ左右ノ

端^ヲ掘^スル 樣^ニ持^ツ以^ニ風^一押^サヘテ 器ノ上ノ端^ヲ余指開^キ

散^ノ取^レ之^薰「燒香ノ煙^ニ三匝^ヲ左ノ手作^テ關伽半印^一

③〇「成^ル堅固ノ大結界^ト」の前に觀想文として②③には、「以^レ印右^ニ旋^ス三匝^スレハ」を加えている。

古―鈷、股、肱

器ヲ安^テ其ノ上ニ右ノ手作^テ小三古ノ印ニ誦^フ覽字三反^ニ加^シ
持スル「三反 次ニ寄^テ右ノ手^ヲ以^テ兩手^ヲ作^ル闕伽ノ印^ニ
印相如^ニ說文ノ器ヲ置^ニ其ノ上^ニ 先ツ誦^ニ觀文^ヲ

雙―双

觀想^{セヨ}「能以^テ一滴^テ水^ヲ成^ス闕伽雲海^ト普^ク遍^ニ諸佛^ノ
利^ニ洗^ニ浴^ス本尊及^ヒ諸聖衆ノ無垢ノ雙足^ヲ令^下修行者^ヲ

洗^ニ除^ノ一切煩惱垢ノ罪^ヲ三業清淨^{ナラ}矣 次明一反并^ニ

頌誦^シ之^ヲ了^テ以^ニ右ノ火風空^ヲ取^テ器ノ端^ヲ空^ハ器^ノ内^ニ香水^ヲ
滴^ニ盤^ノ上^ニ又^タ明并^ニ頌^ヲ誦^フ滴^レ水^ヲ又^タ同^レ上^ニ三^ヒ滴^テ

滴―滴

了^ンナハ器ヲ置^ニ盤^ノ上^ニ又^タ以^ニ右ノ火風空^ヲ取^レ之^ヲ返^シ
置^ク本所^ニ也 於^ニ闕伽ノ印^ニ多說有^レ之^ニ 如^レ文^ニニハ

用^ニ飲食ノ印^ヲ三^ニハ 兩手作^ル宝珠ノ印^ニ空^ニ風相^ヒ捻^ン宝^ノ

形^ニス而^ノ兩^ノ手合^ス以^ニ半印^ヲ供^{スル} 眈^キ用^レ之^也 理性

院方^ニモ 宝珠ノ印^ヲ被^レ用^レ之^歟 半印ノ時^モ被^レ用^レ之^歟

宝池院方^ニモ 半印ノ眈^ハ被^レ用^ニ宝珠ノ印^ヲ歟

兼―承

次蓮花座 印如^レ文 指^ノ端^シ稍屈^ヤスルハ 兼^ニ御足^ヲ意^也

③① 「諸佛ノ利」(長)には「諸佛利土」とある。

邊

先觀文「想^ヘ從^レリ印流^ニ出^ノ無量ノ金剛蓮花^ヲ遍^ニ於^二道場^一令^三諸ノ聖衆^ヲ坐^ニ此寶座^ニ行者獲^ニ得^ノ十地滿^一足^一」^{スル}當^ニ坐^ニ金剛不壞^ノ之座^ニ矣^一明^ニ三反^一

次振鈴 先^ツ以^ニ右ノ手^一取^ル杵^ヲ誦^取五古^ヲ次^ニ直^ニ以^ニ

其ノ手^一鈴^ヲ取^リ具^ノ杵^ニ次^ニ於^ニ胸ノ下ノ邊^一移^ニ鈴^ヲ左ノ

手^一安^ス腰^ニ次^ニ仰^ニ右ノ手^一抽^ニ擲^{スル}杵^一度誦^ニ卅

字^一三反^一次^ニ以^レ杵^ヲ順^ニ三轉^一逆^ニ三轉^一加^ニ持^ス

身ノ五処^一同^レ咒^一虛空三轉^一次^ニ以^レ杵^ヲ安^ニ右ノ乳ノ

下^一返^ニ拳^ヲ向^ヘ外^ニ持^レ之^一也^一次^ニ左ノ鈴^ヲ

當^ニ左ノ耳^一五度振^レ之^一明五反 次胸三度明三反 次

額二度明二反始^一終明合^ノ十反 次^ニ不^レ誦^レ明^ヲ十^一計^リ

振^テ漸^ク終^ル也 次^ニ鈴^ヲ如^ク本ノ安^ノ腰^ニ以^ニ右ノ杵^一順^ニ

三轉^一慈^救咒^一次^ニ又^タ於^ニ胸ノ下ノ邊^一如^レ本ノ鈴^ヲ取^ニ具^ノ

右ノ杵^一返^ニ置^ク本^ニ先^ツ置^レ鈴^ヲ次^ニ置^レ杵^ヲ終^ル

也 此ノ作法与^ニ說文^一相違^ニ之義多^シ依^レ傳^ニ作^ス之^ヲ也

虛

虛

契—契

次五供養印明

此ノ印明十八契印ノ外カ也

故ニ出テ、胎

藏ニ十八道ノ軌ニ无レ之 十八道ノ供養ノ印明ハ大虚空藏ノ

印明也名フ普通普供養印言一也

「先」塗香

印如レ文ノ

但シ大指横ニ掌中ニ以ニ左ノ手ヲ

握ニハ右ノ腕ヲサツタキ「環意」也

結レ印ヲ誦ノ言一反ヲ當テ、本尊ノ

額口御心ト漸ク垂ニ下タス之ヲ也

髻—髻

次ニ花髻

印如レ文

但シニ空開テ各着ニ二風ノ側ニ也

明一反印ノ前ヘノ方少シ開ク也

次燒香

印如レ文 二空離シテ掌ヲ申レフル之ヲ明一反 此ノ

印地水火擬ニ香煙ニニ空離シ申ルハ是レ器ノ中ノ之縁也

次飲食

印如レ文ノ明一反

次燈明

印如レ文 但シ風不レ着ニ火ノ背ニ明一反

獻—獻

次壇上ノ供具一一ニ捧獻ス

「先塗香」

作法准ニ闍伽ニ知レ之ヲ 先ツ取テ壇ヲ薰ニ燒香ニ

置ニ左ノ手ニ以ニ右ヲ加一持スル 三度如ニ闍伽ノ 次作ニ闍

等 等

處 處

伽ノ印ニ誦ニ唵字ヲ奉_一獻ス其ノ奉_一獻ノ時ハ猶シ如_二頂戴_一
ルカ_一而_一後返_二置_ク本處_ニ

「次」時花 小野ニハ用_レ檜ヲ廣沢ニハ用_ユ時花ヲ檜ハ擬_フ
青蓮ニ用_レ之ヲ也 供養ノ作法如_ニ塗香_一但_シ奉_一獻ノ後チ以_二
右ノ空風等_一取_レ花ヲ置_ク壇上ニ三房ヲ取_テ三度ニ置_レ之其_ノ
置_キ様ハ 先ツ闕伽ノ器ノ前ヘ 次ニ塗ノ前ヘ 次ニ花ノ前ヘ
如_レ是ノ置_キ了_テ器ヲ返_シ置_ク本處_ニ

「次」燒香 右ノ手ノ風火指_シ入_テ火舎下ニ以_レ空ヲ押_ヘテ
火舎ノ縁ノ上ニ取_レ之ヲ加_一持_及ヒ供養等如_ニ塗香_一

「次」飲食 不_レ取_ニ飲食_一左_ヲ安_シ腰ニ右_ハ作_テ二小三古_ノ
印ニ加_一持_ス三度 次ニ作_ニ闕伽ノ半印_ニ誦_フ唵ノ明_ヲ獻_ス

次燈明 作法如_ニ飲食_一

次四智讚 先ツ金掌讚一反 誦_レス之ヲ 誦_スル 嚩日羅羯

磨_ト叱_キ 三度舞儀 伽嚩婆嚩ノ時三度拍掌_ス

次本尊讚 金掌讚一反

禮—礼、號—号

次「廣大不空」摩尼供 印如^レ文ノ 観如来界會ノ「道

場虚空法界ニ遍ク滿^ツ無量ノ廣大供養^ヲ所^レ謂ハ種種微妙ノ

塗香 花鬘 燒香 飲食 衣服 臥具 摩尼 燈明

幢 幡 寶蓋 音樂等ノ諸^ヲ雲海周遍^ノ滿^ニ於諸佛ノ

刹土^ニ得^レ成^ル「眞實」廣大ノ供養ト矣 明一反

次^{③③}三力偈不^レ散^セ前ノ印ヲ誦^ニ偈^一了^テ

次ニ金掌唱ニ小祈願ノ句ヲ在^レ別ニ

次禮佛名號 金掌 本尊ノ句三反 余佛各、一反 曩

謨ノ二字オ一ハナウボト唱ヘ オニ已下ハナモト唱フ也

次入我我入觀 印如^レ文ノ 觀念^{セヨ}「本尊坐^シ玉^フ曼荼

羅^ニ我^レモ坐^ス曼荼羅^ニ本尊入^リ玉^ヒ我身^ニ我身入^ル本尊^{③④}ノ

身^ニ譬ヘハ如^シ多クノ明鏡相對ノ互^ニ影現^一涉入^{スル}カ矣

惣ノ入我々入ノ印ハ三ノ様有^レ之 一ニハ如^レ今ノ 二ニハ法

界定印謂^ク以^テ右掌ヲ仰重^ニ置^テ左ノ掌ノ上^ニ二空相捻^{スル}

是^レナリ也^{是ヲ云ハ仏部ノ法界定印^一}又^タ今ノ外縛ニ空相捻^{スル}モ亦^タ云^フ

③②「諸ノ雲海周遍^ノ滿^ニ於諸佛ノ刹土^ニの訓みについて③には、「諸ノ雲海周ッ

遍^ノ滿^ニ於諸佛ノ刹土^ニ」とある。

③③「次ニ三力偈不^レ散^セ前ノ印ヲ誦^ニ偈^一」
③④には「次ニ不^レ散^セ前ノ印ヲ誦^ニ三力ノ偈^ヲ」とある。

③④「入^ル本尊ノ身^ニ」③には「入^ル本尊ノ御身ノ中^ニ」とある。

観
—
觀

金剛部ノ法界定印^一ト也 三^{ニハ} 弥陀ノ定印也^{蓮花部} 惣^ソ尊法^ニ
入我^ミ入^{ニテ}用^{ユレハ}法界定印^一ヲ字輪觀^{ニハ}必^ス用^ユ弥陀ノ
定印^一ヲ今ノ次第此ノ様也 又タ入我^ミ入^{ニレハ}用^ニ弥陀ノ定
印^一ヲ字輪觀^{ニハ}必^ス用^{フル}法界定印^一ヲ也 金剛界^{ニハ}両説
共^ニ用^ニ弥陀ノ定印^一ヲ當界^{ニテハ}用^{ニル}定印^一ヲ処^{ニハ}必^ス用^{ニル}
弥陀ノ定印^一ヲ故也 胎藏返^レス之^ニ普通^ハ前ノ如^ニ兩様^ノ用^レ
之也

次本尊根本印 印如^レ文^ノ 観想想^レへ滿^ニツト有情^ノ願^一ヲ矣
加^ニ持^ス四処^一ヲ明^一反

次心真言 印如^レ文 二地^ニ二水^ハ外縛也 観一切^ノ「諸^ノ

意願^ニ應^ニ心^ノ之所念^ニ由^ルカ結^フニ此^ノ印^一ヲ故^ニ皆悉^ク得^ニ

成就^一スル^一ヲ矣 加^ニ持^ス四処^一ヲ明^一反

次心中心真言 印如^レ文^ノ 明三反 二地^ニ二水^ハ表^{スル}也^レ

輪^ヲ也 已達^ハ猶有^ニ別^ノ沙汰^一

次加持念珠「並念誦法」先^ツ取^ニ念珠^ヲ相^ヒ纏^{マツテ}薰^{スル}ニ^一

纏
—
纏

聊—聊

罗—羅

遠—遼

覩—觀

燒香^ニ如^レ文 次^ニ三度移^ス「^一左右ノ手^ニ如^二塗香^一」次^ニ珠^ヲ
入^ニ蓮花合掌ノ中^ニ當^ニテ、胸ノ前^ニ覽字七反 鍔字七反
淨珠ノ真言七反 次^ニ珠^ヲ少^シ挙^テ誦^ス頌^ヲ文^ニ三度頂戴^ス
便捧^ニ頂上^ニ有^レ之 雖^レ尔^ト如^レ是ノ行^{スル}之^ヲ也 聊^{イハレ}
心^ニ思^ヘ之^ヲ 次^ニ旋轉如^レ文ノ以^ニテ右ノ空風^ヲ取^ニ母珠^一
龙^ニ持^ニ余珠^一誦^ニ唵縛^ニ日^ニ罗^ニ獄^ニ呬^ニ野^ニ引^ニ旋^ニ龙ノ手^ニ至^ニ
才五十四ノ引遼ノ緒ノ許^ニ次^ニ又以^レ右^ヲ取^ニ引遼ノ結^一
緒ノ許^一誦^ニ惹波三摩曳^ニ引^ニ旋^ニ龙ノ手ノ至^ニ母珠^一
如^{スル}「是ノ三反 不^レ越^ニ母珠并^ニ結緒^一也 明^ニ三反^一
今^マ旋^一轉^{スル}「ハ十六頓證ノ表示也 次^ニ両手作^ニ說法ノ
印^一取^ニ念珠^一如^レ文ノ 覩^セ念^セ「本尊ノ心月輪ノ上^ニ有^ニ
陀羅尼ノ字^一右^ニ廻^{ツテ}列^リ住^ス 又自心ノ月輪ノ上^ニ有^ニ陀
羅尼ノ字^一亦復如^レ是ノ 本尊ノ誦^シ玉^フ真言ノ字出^レテ、自^ニ
尊ノ口^一入^レテ自^ニ我^一頂^ニ至^ニ心月輪ノ上^ニ右^ニ廻^テ列^リ住^ス
我^カ誦^{スル}真言ノ字出^レテ、自^ニ我^一口^一入^レテ自^ニ尊^一臍輪^一

无—無

至^ニ心月輪ノ上^ニ右^ニ廻^レ列^リ住^ス矣 次^ニ返^レ印ヲ向^ヘテ
身^ニ念誦^ス但^シ説^フ法^ハ化^レ他^ノ義^ナルカ故^ニ始終可^レ向^フ外^ニ
事^也 雖^モレ^モ尔^ト念珠難^レ繰^リ故^ニ向^ヘテ内^ニ繰^ル也 遍数滿^テ
畢^ハ又入^テ合掌^ニ誦^レ頌^ヲ了^テ印ヲ少^シ挙^テ三^度復^タ薰^ツ燒香^ニ
返^ニ置^ク本處^ニ也 文^ニ収^レムト^ハ宮^ニ者上^ニ古^ハ正念誦ノ念珠^ハ
各^ニ別^ニ入^レテ^ハ宮^ニ用^レト之見^{タリ}今^マハ其ノ沙汰无^レ之 依^テ
宮ノ様^モ不^レ知^也 今^マ此ノ正念誦ハ初^メ自^リ取^ニ念珠^一
終^至ルマテ珠^ヲ収^レムルニ宮^ニ悉^ク表示有^レ之故^ニ無^ニ相遠^一様^ニ
可^レ行^ス之ヲ也

次本尊三種ノ印真言 如^ク前ノ作^ス之ヲ

次字輪觀 印如^レ文 觀^{セヨ}「我^ノカ心^ニ有^リ八葉ノ白蓮花^一
上^ニ有^リ滿月輪 其上^ニ有^リ唵^ヲ縛^バ羅^ヲ娜^ヲ鉢^ヲ頭^ヲ迷^メ合^ニ吽^ヲノ字^一
而^ノ其^ノ一^ノ字義即^チ順逆^ニ觀^{セヨ}而已^{此ノ間} 唵^ヲ字^ヲ「流^ル注^ス不^レ
可^レ得^{ナリ}也 唵字流注不可^レ得^{ナルカ}故^ニ縛字言説不可^レ得^{ナリ}
也 縛字言説不可^レ得^{ナルカ}故^ニ羅^ヲ字塵垢不可^レ得^{ナリ}也

③⑤ 「唵」(長音)写漢字の左に梵字「𑖀」を付している。

③⑥ 「縛」(真)には「𑖀」とあり、(長)には音写漢字の左に梵字「𑖀」を付している。

③⑦ 「羅」(真)には「囉」とあり、(長)には音写漢字の左に梵字「𑖀」を付している。

羅字塵垢不可得^{ナルカ} 故ニ^{③⑧} 娜字施與不可得也 娜字施

與不可得^{ナルカ} 故ニ^{③⑧} 鉢字勝義不可得也 鉢字勝義不可

得^{ナルカ} 故ニ^{④①} 頭迷^{④①}二字我執不可得^{ナルカ} 也 頭迷字我執不可

得^{ナルカ} 故ニ^{④①} 卍字因業不可得^{ナルカ} 也^{是ヲ名順觀ト唱} 卍字「因業

不可得^{ナルカ} 故ニ^{④①} 頭迷字^合我執不可得^{ナルカ} 也 頭迷字我執

不可得^{ナルカ} 故ニ^{④①} 鉢字勝義不可得^{ナルカ} 也 鉢字勝義不可得

ナルカ 故ニ^{④①} 娜字施與不可得^{ナルカ} 也 娜字施與不可得^{ナルカ}

故ニ^{④①} 羅字塵垢不可得^{ナルカ} 也 羅字塵垢不可得^{ナルカ} 故ニ^{④①} 縛

字言說不可得^{ナルカ} 也 縛字言說不可得^{ナルカ} 故ニ^{④①} 唵字流

注不可得^{ナルカ} 也^{「是ヲ爲逆觀ト展轉相接メ觀レ之ヲ展} 矣

次本尊三種ノ印真言 如^レ先ノ作^レ之 但^シ已^ハ達^ハ於^ニ

此ノ処^ニ 先^ッ大日 次本尊 次佛眼各印^ハ明結^ハ誦^ス

之^ヲ 今十八道^ニ 无^レ之 已^ニ次才^ニ无^レ之其ノ上大日

等ノ印明未^{ルニ}傳受^セ故^ニ也

次散念誦 先^ッ取^レ珠^ヲ少^シ摺^テ佛眼大日等ノ咒 本尊ノ三

③⑧ 「娜」(長)音写漢字の左に梵字「𑖦」を付している。

③⑨ 「鉢」(長)音写漢字の左に梵字「𑖦」を付している。

④① 「頭迷」(長)には音写漢字の左に、梵字「𑖦」を付している。

④② 「卍」(長)には音写漢字の左に、梵字「𑖦」を付している。

ここまでは順観、この後逆観で逆に梵字の文字を觀想する。

各字義は同じである。

種ノ真言及ヒ本尊ノ有縁ノ諸尊ノ真言乃至誦ニ一字ノ咒ヲ
 畢テ摺レテ殊ニ可ニ祈請一ス散念誦諸尊ノ真言等別ニ有
 レ之散念誦ノ始メニ誦スルハ佛眼ノ咒一盱修ノ功德增長ノ
 利益期ニ未來際一猶ヲ不二失壞ニ為レ令ニ悉地成就セ一也一
 字ノ咒ハ若シ金輪ノ行者有レ之時ハ五百由旬ノ内ノ諸尊ノ
 功德悉ク隱没ス故ニ為レメニ不^二ラ^一ルカ彼^レニ隱没^一誦ル也之ヲ
 又我^一今マ誦スレハ彼ノ明一亦タ五百由旬ノ中ノ諸ノ行者ノ
 盱^一修ノ功德隱没スルカ故ニ為レ令^下メシカ彼^レヲ得^中成就^上ヲ
 一字ノ後ニ已達ハ誦ス佛眼ノ明一此ノ盱^キ諸尊ノ功德即
 叱^ニ出^一現スル也^{以テノ}佛母ノ德一故ナリ也雖^レヒ^{リト}十八
 道ニハ不ス誦^セ之ヲ

次ニ五供養「印明」如シ先ノ

④② 次事供 如シ先ノ

次闕伽 如シ先ノ

④③ 次ニ結願ノ作法 此ノ作法ハ結願ノ座ニハ此ノ次キ金打

④② 「次事供」(大興長)「次獻ニ壇上ノ供具ヲ」

④③ 「次結願ノ作法」(大興長)には、この標目
 を挙げず、伝授にて口伝している。

取^レ珠^ヲ已^ハ達^ニ 結願ノ詞在^ニ
珠^ト杵^ト呂^ト也

④ 次ニ神分析願等

次後鈴 右ノ拳腰以^ニ左ノ手^ヲ取^レ鈴^ヲ於^テ下^ニ金剛盤^ト与^ニ

火舎^一間^ニ上^ニ誦^フ振鈴ノ明^一反^ニ振^レリ之^ヲ了^テ返^シ置^キ本處^ニ也

後^一鈴^ハ奉送ノ義也 儀軌^ニ无^シ之奉送^ハ奏^ニスル音樂^一意^ニテ

用^レ之^ヲ也 依^レテ之^ニ沢方^ニ後^一鈴不^レル用^ヒ多有^レ之

次讚 四智 本尊如^シ先^ノ

「次」普供養「印明並」三力「偈」如^レ前^ノ

次禮佛名號 小祈願ノ次礼佛如^シ先^ノ

次廻向 在^レ別^ニ 先^ツ取^リ直^フ念珠^ヲ金丁 已^ハ達^ハ杵^ト

呂^ト同^ク取^レ之^ヲ 廻向了^テ置^ニ香呂并^ニ杵^一

次「五悔」至心廻向「段」先^ツ珠^ヲ掛^ニ左ノ腕^ニ金掌^ニ誦^シ

畢^テ置^ク珠^ヲ 已^ハ達^ハ珠^ヲ其^ノ俣^ニ乍^ラ掛^ケ腕^ニ解界 撓遣

三部 被甲 普礼作^レス之^ヲ未^ハ達^ハ此^ノ叱^キ念珠置^ク之^ヲ也

次解界 皆^ナ如^ニ次才^一但^シ地結^ハ上^ハ、解^ク之^ヲ 但^シ印^ノ

④ 「次ニ神分析願」(大興長)には、この標目を挙げていない。

埵―挿、挿

向^ケ様^ハ如^シ結界ノ時^一皆^ナ轉^{スル}「一度也」

次撥遣 以^ニ右ノ風空火^一ヲ取^ニ後供養ノ花鬘ノ殘^レル

一花^一埵^ニ中ノ端^ニ余^一指皆^ナ外^一縛 想^下へ本尊^ヲ於

奉^上レト送^リ本土^ニ矣 真言一反 則^チ以^ニ右ノ空火^一ヲ取^レ

花^ヲ置^ク後^一供ノ花鬘ノ向^ニ若^シ花^ヲ落^テ取^ニ右ノ花^一ヲ投^{ケル}

左^ニ也 理性院方^{ナトハ}必^ス取^テ右ノ花^一ヲ用^レ之^ヲ歟

次ニ三部「三昧耶」

「次」被甲「護身」如^シ前ノ明各一反 佛部頂 蓮^一

花部頂ノ右 金剛部頂ノ左 被甲五処 今用^ニ「ハ」四種ノ

印明^一已^ニ本尊^ヲ奉^レ送^リ本土^ニ故^ニ惜^レ奉^ルヲ別^ニ本尊ノ

加護^一重^テ用^ニ三部 被甲ノ加持^一 又^ハ上ノ行^一法^ハ上^一

轉修^一行出^一道場^ハ下^一化衆^一生^{ナレハ}初^メ用^ニ淨三業^一今^ハ

已^ニ三業清淨^{ナレハ}不^レ用^レ之^ヲ為^メ下化衆生^ノ故^ニ用^ニユル

三部 被甲^一也 上ノ三部 被甲^ハ上^一轉修^一行今^マ下^一

化衆生^{ナリ}也

次ニ普禮 金掌 明一反了^テ摺^レテ珠ヲ金一ツ打^ツ之ヲ而^ノ
次才収^レテ之ヲ 火^一舎 右ノ闕塗花ノ器 左ノ闕塗花ノ器
引^キ直^ノ之^一下礼盤 次ニ摺^レツテ珠ヲ五躰投^テ地^ノ 三礼明三
反如^シ初^ノ

次ニ出道場

次印佛讀經等 印佛ノ作法別ニ在^レ之 但シ今ハ四度ノ
行者不^レ作^レ之ヲ 其ノ所^一以^ハ開眼等未^ハ達^ハ難^レ成故ニ
讀經ハ行法ノ余隙ニハ可^レ作^レ之ヲ 是モ何^レノ經ヲ讀ムト云フ
定リハ無^シ之任^テ意ニ可^ニ讀誦ス也

大師 尊師ノ御前ノ所作道場莊嚴入^一堂等全ク如^ニ
加行ノ時^一也

師口ニ云ク事供下ノ文ニ云安^④三股印上ト者ハ此ノ義未決也
也 宝珠ノ印歟 凡ツ三古ノ印ニ有^リ四種^一 一ニハ以^ニ空^一
押^ニ風ノ甲^一 二ニハ火ノ甲 三ニハ水ノ甲 四ニハ地ノ甲ナリ
也 宝珠ノ印風空捻^ノ 押^レスト甲ヲ与^トノ相捻^一異耳 尔^ハ

④「安三股印上」この文は、④十四丁左の
七行目にある文であり、④(異)にもある。

此ノ印ノ義歟 シカト 耽不_レ知_レ義也 云云 拍掌_ミ了_テ 金掌無_レ

之 四智十八道_{ニハ} 拍掌了_テ 金掌無_レ之 金界_{ニハ}

讚了_テ 金掌_ニ 後ノ觀想有_レ之

師口ニ云ク 一_ハ 灯ノ_ハ 眈_キ 後_ハ 供_{ニハ} 此ノ方_{ニハ} 灯_ハ 明不_レス 供_レ之_ヲ

也 明恵ノ說_{ニハ} 星ノ光_ヲ 觀_ニ 灯明_ト 一_ハ 供_レ之_ヲ 等ノ說雖_モ 有_ト

此ノ方_{ニハ} 如_レ 右ノ_ハ 也

師口ニ云ク 衣加_ハ 持了_テ 護身法 此ノ眈四度ノ行者_ハ 觀想ノ

文不_レス 誦_レ之_ヲ 也

師口ニ云ク 指ノ文_ト 云フ_ハ 内_チ 也 節_ト 云フ_ハ 指ノ背_カ ノ之事_也

師口ニ云ク 表_テ 向_キ ノ傳授_{ニハ} 者十八道加行折紙之傳授_一

日十八道ノ次才讀_ハ 渡_シ 並_ニ 口_ハ 說二日都_ハ 合三日_{云云}

(以上)